

一般質問（要旨）「市政のここを問う」

今定例会では、16名の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。
 要旨は1～2問とし掲載しました。
 会議録は8月上旬頃に市役所情報コーナー及び図書館に配置します。
 また、福生市ホームページにも掲載しますので、ぜひご覧ください。
 なお、一般質問通告一覧は、福生市議会ホームページに掲載しています。
 ※録画映像を議員名左横のQRコードよりご覧いただけます。



▲福生市議会HP
 (通告一覧へ
 リンクします)



▲議員BOOK
 (各議員の過去の
 一般質問や
 会議録をご覧
 いただけます)

横田基地について

質問 令和6年3月に米軍がオスプレイの運用停止措置を解除すると発表した。その後の飛行再開や配備の動きについて伺う。

市長 防衛省等からの情報を受け、都と5市1町で構成する協議会等から安全対策の徹底や情報提供等を国に要請したほか、同月下旬には私が防衛省本省を訪れ、木原防衛大臣と意見交換を行った。現時点で飛行再開

は確認できておらず、北関東防衛局は配備計画等の変更は聞いていないとのことだが、引き続き都や周辺自治体と連携し、迅速かつ正確な情報提供を国及び米軍に求めていく。

子ども計画について

質問 令和5年度に実施した子ども・子育て支援に関するアンケート調査から見てきた課題と、福生市子ども計画策定の進捗状況について伺う。

市長 アンケートでは、保護者は子育てに関する相談の場を求める一方、地域子育て支援事業の利用率が低いこと、子どもたちはより多様な放課後の活動場所を求めていることなどが分かった。福生市子ども計画は子ども・子育て審議会に諮問中で、今後意見をいただくほか、高校生ワークショップなどで、子どもや関係者の声を聞きながら準備を進める。



正和会
 佐藤 弘治 議員



▲高校生ワークショップでの発表の様子

カスタマーハラスメントについて

質問 自治体でカスタマーハラスメント対策に乗り出す動きが出始めているが、本市の対応を伺う。

市長 本市では福生市不当要求行為等防止対策要綱を定め、市民及び職員の安全と公務の円滑かつ適正な執行を確保している。職員は不当要求行為等防止対策研修やハードクレーム対応研修を受講し、来庁者には面会の強要や乱暴な言動などの禁

止事項を庁舎内に掲示するほか、令和6年4月から職員カードを名字のみの表記に変更した。これらの取り組みにより職員を守り、安全な職場環境の整備に努めている。

緑の管理と保全について

質問 伐採後の木の新芽を育て、森林を造成する「萌芽更新」の手法は緑の管理と保全の上で大切と考えるが、市の考えを伺う。

市長 本市では平成14年からボランティア団体の福生萌芽会を中心に、福生公園(文化の森)で萌芽更新による公園管理を行っている。人工的に手を加え樹木を再生する手法は雑木林の保全に有効だが、現在の高木化した樹木伐採は高度な技術を要する。今後も萌芽更新の一つの手法としつつも、費用対効果を考慮し、各公園に適した維持管理に努めていく。



公明党
 原田 剛 議員



▲福生萌芽会の活動の様子

孤独・孤立対策について

質問 孤独・孤立対策推進法が令和6年4月に施行されたが、これを受けての本市の取り組み状況を伺う。

市長 本市では複雑化・複合化した孤独・孤立状態を把握した場合、部署ごとの連携体制により迅速かつ適切な支援を行っている。相談先が分からない場合は、社会福祉課で包括的な相談支援を実施している。このほか、民生委員・児童委員協議会

が実施する子育てサロン「はとぽっぴ」や高齢者を対象とした高齢者見守りステーションの設置など、孤独・孤立に悩む人を誰一人取り残さない社会、相互に支え合い人と人とのつながりが生まれる社会を目指し、必要に応じ適切な対策を講じていく。

英語教育の推進について

質問 本市の公費による英語検定はGTECを導入しているが、保護者

からはいわゆる英検の復活を求める声が多い。市の考えを伺う。

教育長 GTECの導入により、全ての生徒が英語のスピーキング能力を試す機会を得られ、「話す能力」の向上に大きく寄与したほか、結果の分析により授業の改善にもつながったと考える。英語教育の状況は年々変化しており、公費での実施については、今後も包括的に研究する。



正和会
 山崎 貴裕 議員



多文化共生の促進に関する取組について

質問 多文化共生への令和5年度及び今後の取り組みについて伺う。

市長 昨年度は、多文化への理解促進として日本人向けの多文化共生講演会や、地域の共存・共助の推進として、外国人への防災講習会を実施。また、市広報の多言語化として、約100言語の広報多言語翻訳システム「広報プラス」を導入した。今後の取り組みでは、日本語支援機関の協

力により「やさしい日本語」で市の事業等を外国人コミュニティへ周知する。コミュニティに属さない外国人にも、外国人向けの商店などに協力していただき、周知を図るなど地域と連携していく。

郷土愛を育む学校教育の一層の推進について

質問 学校における自然体験活動を通じた郷土愛の育成について伺う。

教育長 郷土愛の育成には、福生の自然を実感する活動の充実が重要と考える。活動を豊かに展開していくためには、長年福生の郷土で生きてきた地域の方々のご協力が欠かせないことから、コミュニティ・スクール委員会や各町会・自治会などのご協力をいただきながら、教育活動に自然体験活動を計画的に位置づけていくよう学校を指導していく。



正和会
 森田 哲哉 議員



▲多文化共生講演会の様子